

教育福祉委員会行政視察報告書

1. 実施日 平成 24 年 10 月 30 日（火）～10 月 31 日（水）

2. 視察地

- 1) 富山県小矢部市（10 月 30 日）
- 2) 石川県加賀市（10 月 31 日）
- 3) 福井県福井市（10 月 31 日）

3. 視察項目

- 1) 小矢部市「認知症あんしんネットについて」
- 2) 加賀市「高齢者お達者プランについて」
- 3) 福井市「教育支援プランについて」

4. 出席者 教育福祉委員会

委員長	佐伯 哲也
副委員長	山口 正博
委員	亀谷 光 山根 一男
	野呂 和久 川合 敏己
	出口 忠雄
議会事務局書記	上田 都

5. 視察結果報告（小矢部市）

（1） 視察地の概要

富山県小矢部市

人口：31,987 人（H24 年 9 月末現在）

面積：134.11Km²

住所：富山県小矢部市本町 1-1



（2） 視察の目的

小矢部市の「認知症地域支援事業」の取り組みについて

（3） 視察の内容

全国的に高齢化が進む中、小矢部市の高齢者対策の一つ「認知症支援事業」の活動報告をお聞きしました。

※小矢部市人口：31,987 人（内外国人 318 人）

※高齢者人口：9,525 人（高齢化率 29.78%）

※高齢者のみ世帯：2,172 世帯---(10,040 世帯)
(内一人暮らし・1,141 世帯)

※介護保険認定者：1,583 人 (認定率 16.6%)
(内在宅・1,007 人)

※認定者のうち認知症自立度Ⅱ以上 (在宅) 577 人 (H23. 9. 30)

※徘徊のおそれがある高齢者 79 人 (H24. 6. 30)

以上のような現状に於いて～おやべ発「認知症」ど～もないぢや！～の言葉のもと、小矢部市は「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」を目指しています。

「認知症は誰にも起こりうる脳の病気です」

認知症は、記憶障害、認知障害から、元気がなくなって引っ越し思案になったり、身の回りのことができなくなったり、幻覚や妄想などの精神症状がおこったりします。

周囲の人が認知症への正しい理解を持ち、認知症の人や家族を支えていくことで「住み慣れた地域でいつまでも暮らしていくこと」ができます。

厚生労働省では認知症への正しい理解を広めるため「認知症サポーター100万人キャラバン」を展開しています。(オレンジリング)

小矢部市でも、認知症を正しく理解し、応援する人を育てる講座「認知症出前講座・認知症サポーター養成講座」を開催しています。

※認知症サポーターとは

認知症の方の応援者です。まず認知症について正しく理解し、偏見を持たず、認知症の人や家族に対して温かい目で見守ることからスタートです。



市役所玄関に貼られた認知症サポーターの存在を示すシール

「認知症高齢者見守りネットワーク」

厚生センターを中心に市役所・社会福祉協議会・警察署・消防署・がそれぞれの関係機関と連携し、また地域、自治会、学校、民間企業、医師会、商工会、銀行等の協力を得てまさに全市民的なネットワークとなっています。

「認知症地域支援事業」

小矢部市の資源<1>

※地域包括支援センター：直営 1ヶ所

※在宅介護支援センター（プランチ）3ヶ所

※特別養護老人ホーム 2ヶ所

※老人保健施設 2ヶ所

※介護療養型医療施設 2ヶ所

※地域密着型サービス

- ・小規模多機能型居宅介護 2ヶ所
- ・認知症対応型共同生活介護 8ヶ所
- ・認知症対応型通所介護 1ヶ所

小矢都市の資源<2>

- ※居宅介護支援事業所 11ヶ所
 - ※訪問介護 2ヶ所
 - ※訪問看護」 2ヶ所
 - ※通所リハビリ 2ヶ所
 - ※通所介護 10ヶ所
 - ※短期入所 4ヶ所
 - ※福祉用具貸与・販売 2ヶ所
- ：認知症サポーター 6,008人
：見守り協力事業所 223事業所

コーディネーター委続嘱（協働体制）
オブザーバー 厚生センター・県高齢福祉課

「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」

※ビジョンの実現のために

- ：地域づくり・人づくり・ネットワーク

※まずは土台づくりから

- ：理解者・支援者を増やそう（サポーター養成・キャラバンメイト育成）
- ：ローラー作戦・出前講座

※見守りネットワーク構築

- ：認知症見守りネットワーク運営会議

- ・徘徊見守り模擬訓練

1. 生命が危険にさらされる可能性のある「徘徊」について地域住民が知り見守り（検索）
声かけ、保護を体験する。
2. 検索が必要になった場合に関係機関にスムーズに情報の伝達と早期に発見できる体制づくり。
3. 見守りネットワークにおける課題や問題点を把握する。

ビジョンの実現ために～できることから～
無関心から関心へそして支援へ

「点から線に」、「線から面に」・地域と共に！！

明日のわたしの、ためだから・・・・

(4) 質疑応答

Q : 認知症の方が所在不明となったとき市民に捜索への協力、情報提供のお願いあたり、性別、特徴、年代、身長、服装等の公表は理解しますが、小矢都市さんにおいては、氏名、さらには写真も公表されるとのことですが、個人情報保護法からして問題とならないか。

A : 捜索にあたり市民への情報提供の呼びかけをするさい、家族の方に、どこまで情報として公表するかは家族の同意を頂いてから行っている。

市民の多くの方が認知症を理解されています。また万が一のとき、早い発見、保護のため、認知症の方がいる家族では普段に、携帯電話等に写真を記録されています。写真は早い発見保護に効果的です。

(5) 考察（まとめ）

少子高齢化が進む中、待ったなしの高齢化社会が始まっています。自治体に重くのしかかる負担増、高齢者対策をどう考えていくか。小矢都市に見るまでも無く、本市に於いても年々高齢化が進んでいます、厳しい財政状況の中であるが対策を考えいかなければなりません。

小矢都市に於ける「認知症高齢者見守りネットワーク」を支えているのはボランティアの方が大半です。言い換ればボランティアの協力は不可欠といえると思います。

本市に於いても、高齢者支援事業なり考えるときボランティア抜きでは厳しいと考えられます。

私が子供のころよく耳にした言葉に、「向かい3軒両隣、困ったときはお互い様」、まさに助け合いの心だと思います。

[向かい3軒両隣、困ったときはお互い様]

今の時代にこそ生かすべきだと思います。

6. 視察結果報告（加賀市）

(1) 視察地の概要

石川県加賀市は、能登半島の付け根にあり、北は日本海、東は白山、南には大日山と自然豊かなまちであり、福井県と県境に位置する。

江戸時代は、加賀藩よりわかれた大聖寺藩が治めた地域である。

昭和の大合併を経て、平成17年10月に加賀市と山中町（まち）が合併し、現在の加賀市となる。加賀市は、山中・山代・片山津の3つの温泉を抱える観光都市である。バブル期は宿泊客数も年400万人を数え、財政力指数も0.98であったが、現在は半分の200万人となり、財政力も0.6を切る状況である。

人口は、72,416人（平成24年8月）で、高齢者数は20,165人で高齢化率は27.84%で、約4人に1人が65歳以上の高齢者である。

(2) 観察の目的

「高齢者お達者プラン」について

少子高齢化が叫ばれる今日。高齢者が住み慣れた地域で生き生きと暮らしていく町づくりを計画し実施している加賀市を観察した。

(3) 観察の内容

「高齢者お達者プラン」について

〈基本理念〉

高齢者が住み慣れた地域で支えあいながら、その人らしく自立した暮らしを継続できる社会の実現を目指す。

※市民の皆さん「最後までお達者で頂きたい」との願いを込めてネーミングしたもの。(老人福祉計画と介護保険事業計画を合わせた計画をお達者プランとした。)



〈その為の取り組みとして〉

①介護予防とリハビリテーションの充実

ア. 社会参加と健康づくり

要介護認定者を除く高齢者による「地域おたっしゃサークル」の開催。

体力測定、身体機能検査、講師による運動と講座、創作活動等を実施。現在、市内 54 サークルで開催。年 5 万円の補助あり。(補助金交付要件は、月 3 回以上の開催及び 75 歳以上の参加が 2 割以上)

イ. 基本チェックリストと生活アドバイス票の送付

65 歳以上で介護認定を受けていない人全員に、介護予防の基本チェックリストを送付。

チェック項目に応じ、筋トレ教室への参加を勧める。

ウ. 認知症予防の早期相談、発見、診断

専門医 (6 人) による認知症の研究会を立ち上げ、初期の認知症患者を如何に早く見つけ診断に結びつけるかを研究。

エ. リハビリテーションと介護サービスの質の向上

(ケアマネ、ソーシャルワーカー向け)

高齢者の思い (ニーズ) を引き出せる面接・相談技術研修。

(介護事業所職員向け)

センター方式認知症ケアマネジメント研修。
権利擁護研修（虐待防止）。

②認知症対策の推進

ア. 認知症サポーター養成講座

認知症のことを正しく理解する人を増やしていく。そこから、認知症のひとや家族を見守る応援者が増える。それが、認知症サポーター。（現在2,365人がサポーター）

キャラバンメイト有志による認知症啓発劇の公演。



イ. 介護なんでも110番

介護のことを気軽に相談できる「相談窓口」。

キャラバンメイト（認知症講座の講師役）が2名以上いる介護事業所。現在30カ所に設置。

ウ. お出かけ支援ネットワークの構築

今年度防災訓練時に模擬訓練を実施。

③地域包括ケア体制の構築

加賀市内の高齢者を対象としたアンケートをうけて

〈介護が必要になったり、認知症になった時、どのような場所で介護を受けたいか〉

（自宅 47.9%、施設 35.7%、高齢者専用住宅 14.5%）

ア. 全地域へ均一した入所・入居施設の整備

イ. 小規模多機能ホームの整備

〈その他〉

④権利擁護の推進

⑤地域生活を支える環境整備

（4）質疑応答

Q： サポーターの目標数は。

A： 認知症理解者の拡大のために、できれば市民全員になって頂きたい。

Q： お達者サークルの運営状況は。

A： サークルの運営責任者の育成が大切になる。そのため、リーダー研修会を開催し、サークルの持続を進めている。社会資本（通える場所づくり）が必要。そのため、サークルには

基準があてはまらない所にもノウハウがあれば「集まる場」として開催している。

Q：サポーターの広がりからの成果は。

A：介護施設のその周辺住民の交流の中で認知症の理解が広がった。

(5) 考察（まとめ）

高齢化社会は、日本人がこれまでの歴史の中で初めて経験する社会現象といえる。古の知恵を参考にすることは勿論のこと体制も出来ておらず、新たに構築していくしかない。平成12年から始まった介護保険制度は「家庭介護者の負担軽減」を目的にその第1歩をスタートさせたといえる。

可児市の平成22年の高齢化率は、20.1%と全国平均（23%）を少し下回る。しかし、地区ごとで見ていくと30.2%の兼山地区を始め全国平均を上回る地区が4地区を数えている。こうした可児市の高齢化の中、加賀市（27.84%）の視察は将来を見据え意義のあるものとなった。

包括ケア会議（実務者会議）と現場の各協議会との連携、現場職員の研修（ケアマネ面接技術など）、認知症サポーター（市民の認知症理解者づくり）、介護なんでも110番（相談体制の整備）、アンケートを通じた市民ニーズの把握と地域均等の施設整備など。男性介護者時代への体制整備も今後課題となる。

7. 観察結果報告（福井市）

(1) 観察地の概要

福井県福井市

人口：268,506人（平成24年9月現在）

面積：536.19km²

学校：小学校50校（児童数14,326人）

※最少の学校8人、最大の学校908人

：中学校23校（生徒数7,195人）

※最少の学校7人、最大の学校757人



(2) 観察の目的

福井市の「教育支援プラン」について

福井県は、小中学校の学力、体力とも全国平均を上回り、高レベルにある。福井市の教育の特徴として、2学期制の導入、中学校区教育の実施等があり、特に同じ中学校区内の保幼小中が連携し学びの連続性を意識した教育がなされている。

(3) 観察の内容

福井市では、平成20年～23年市基本方針として、日本一の教育システムの整備を掲げ『希望と安心のふくい新ビジョン』を策定した。この基本方針をベースとして、子どもたちや教員・学校を支え、家庭・地域・社会の教育力を高める支援策として、平成21年3月に『福井市教育支援プラン』を策定した。

策定にあたっては学識経験者やPTA、小中学校校長会等の代表者による11名からなる検討委員会を組織し、さらにその下に各6名から成る4つのワーキンググループを立ち上げた。4つのグループのそれぞれのテーマは①子どもや教員への支援 ②家庭・地域との連携 ③保幼小中の連携 ④食育 であった。

結果、6つの重点目標にしたがって合計35の具体的な施策をまとめた。施策内容は、以下のとおりである。

重点目標1 郷土福井について学ぶとともに、世界に目を向けた教育への支援

1. 郷土の偉人や地域の特色等を学ぶ「子ども福井学」の推進
2. 「故郷学習」の推進
3. 小中学校における英語教育の充実
4. 留学生や福井在住の外国人との交流の推進
5. 情報機器の活用を通じた情報の収集・活用能力の育成
6. 環境教育の推進
7. 図書館を利用した学習の充実
8. 将来に目を向けたスポーツ活動の充実
9. 福井市中学生サミット」の開催

重点目標2 学びの場としての学校の教育環境づくりへの支援

10. 福井大学教職大学院と連携した学校及び教員のレベルアップ
11. 小学校高学年における教科担任制の推進とボランティアと連携した授業づくり
12. チャレンジ教室の機能強化と教育相談体制の充実
13. 特別支援教育の充実
14. スクールソーシャルワーカーの配置
15. 特色ある教育活動の推進
16. 学校の危機管理への支援
17. パソコンの有効活用による多忙化解消

重点目標3 食の楽しさを感じる食育への支援

18. 「学校食育サポート（仮称）」の配置
19. 栄養教諭、学校栄養職員による食の充実
20. 食料生産体験の実施
21. 食育情報の提供
22. 地場産物を取り入れた給食の充実
23. 給食の献立の充実や環境の整備

重点目標4 保幼小中の連携への支援

24. 保幼小の交流ウィークの設定
25. 保幼小連絡協議会の設置
26. 中学校区単位の教職員研修の推進
27. 中学校区を超えた連携の推進



重点目標5 家庭・地域・学校の連携の推進

- 28. 地域全体で学校を支援する会
- 29. 教育ウィークの実施
- 30. 地域と連携したキャリア教育の推進
- 31. 教育委員による中学校懇談会の開催
- 32. 地域社会への子どもたちの積極的な参加の予定

重点目標6 教育活動の基盤となる施設・設備の充実への支援

- 33. 体育館・校舎の耐震補強工事の推進
- 34. 校舎・グラウンド等の改修の推進
- 35. 学習環境の快適化に向けた整備の促進

(4) 質疑応答

Q：家庭や地域の教育力が低下している。貴市ではその問題は何であると考えられるか？

A：明確な回答は持ち合わせていない。家庭の教育力の低下が一番の原因だと思う。たとえ非常に走る児童生徒も、家庭環境がしっかりしていれば立ち直れる可能性が高い。

Q：重点目標の中で5つの力量アップ高めようとされていますが、その中でも最も大事なものが家庭ではないかと考えますが、その家庭の力量を高める手法として具体的にどのようなことを考えているか？

A：行政から直接家庭に働きかけて要求することはない。学校を地域に対して開くことによって、家庭の方に学校を理解してもらう努力をしている。

Q：保護者の過度なクレームや要求には、教員の指導力を高めるだけでは解決が困難ではないかと考える。教員が直接関わる時間を確保するためには、教員以外のサポート役が必要ではなかいと考えるが、その対策は？

A：先生方に対するクレームもある。必要に応じて弁護士に相談することもあるが、実際に係争に至るケースはない。

Q：いきいきサポーターはどのような方が？

A：教員免許か保育士の資格のある人か、それに準じた方。女性が圧倒的に多い。

(5) 考察（まとめ）

福井市の教育全般に対する総合的な取り組み『教育支援プラン』は、当市にとってもたいへん参考になるものである。特に中学校区単位での保幼小中の交流や教師間の連携、地域の教育力アップなど、当市のEduce9に通じる点も多い。いじめ防止に対する取り組みなどは、当市ほうが先進的な取り組みをしているともいえる。

当市をはじめ多くの自治体において、個々には取り組まれている教育支援に対する様々な施策を、6つの重点目標を掲げて、総合的なプランとしてまとめ上げ推進している点が福井市の『教育支援プラン』の優れている点である。

福井市に比べると行政規模が小さい当市であるが、それだけによりきめ細かい教育

支援プランをつくり、より体系的に進めてゆくことの必要性を感じた。当市における Educe9 の取り組みも 10 年になり、多少形骸化している感も否めない。すでにある施策の検証を含めて、より市民に分かりやすく実効性のある教育支援体制づくりに関して、今回の福井市の行政視察は、たいへん参考になった。

可児市議会教育福祉委員会行政視察行程表

平成24年10月30日(火)～10月31日(水)

月日	行 程 【全行程貸切バス利用】				視 察 先		調 査 事 項
10月30日(火)	可児市役所 —— 可児御嵩 IC —— 小矢部東 IC —— 小矢部市役所 8:45 出発 9:00 (東海北陸道) 11:45 12:00(駐車) —— (昼食) —— 小矢部市視察 —— 小矢部 IC —— 徒歩 12:15～13:15 徒歩 13:30～15:00 15:30 (北陸道) 加賀 IC —— 加賀市 (宿泊) 16:20 16:40				○富山県小矢部市 人口 32,019人 (H24.8月末現在) 面積 134.11 km ² 住所 〒932-8611 富山県小矢部市本町1-1 電話 0766-67-1760 担当 かわなみ様 議長 中村 重樹様		・認知症あんしんネットについて
10月31日(水)	宿泊先 —— 加賀市視察 —— 加賀 IC —— 福井北 IC —— (昼食) 9:00発 9:30～11:00 11:20 (北陸道) 11:40 12:00～13:00 —— 福井市視察 —— 福井 IC —— 小牧 IC —— 可児市役所 13:30～15:00 15:30 (北陸・名神) 17:30 18:30				○石川県加賀市 人口 72,370人 (H24.9月現在) 面積 306.00 km ² 住所 〒922-8622 石川県加賀市大聖寺南町ニ41番地 電話 0761-72-7965 (直通) 担当 なかがわ様 議長 林 俊昭様		・高齢者お達者プランについて
教育福祉委員会	◎ 佐伯 哲也 ○ 山口 正博 亀谷 光 山根 一男 野呂 和久 川合 敏己 出口 忠雄 (議会事務局) 上田 都				○委員長 ○副委員長 合計8名	〒509-0292 岐阜県可児市広見一丁目1番地 可児市議会事務局 議会総務課 担当 上田 都 TEL: 0574(62)1111 FAX: 0574(63)3972	・教育支援プランについて